

恩師に近況報告（航空学生の母校訪問）



母校の正門前で敬礼する牧山航空学生



2・3年次担任教諭（左）と1年次担任教諭（右）

最後に2・3年次のクラス担任だった治教諭から「必ずパイロットになって私を体験搭乗に招待してね」との激励に「6年後、必ず招待します」と力強く答え、サポートを全力で行っていきたい」としている。

最後に2・3年次のクラス担任だった治教諭から「必ずパイロットになって私を体験搭乗に招待してね」との激励に「6年後、必ず招待します」と力強く答え、サポートを全力で行っていきたい」としている。

「意志が強い生徒だったから、彼ならきつと大丈夫です」と教え子達の活躍に目を細めていた。

また、同じく今春同校を卒業し防大や自衛官候補生として入隊した卒業生の頑張りについても所長から報告を行った。特にこの日、第1特科連隊（北富士駐屯地）で自衛官候補生の修了式を迎え、水陸機動団への配置が決まった卒業生の話に「水陸機動団というのは、先日テレビで放映された凄く厳しい部隊ですよね」

自衛隊神奈川地方協力本部上大岡募集案内所（所長 荒木3陸佐）は、6月26日（金）海上自衛隊航空学生の母校訪問に同行した。今春難関を突破し小月教育航空群航空課程に入隊した牧山航空学生の帰省に併せて、母校である神奈川県立水取沢高校を訪問し、学校長、進路教諭及び当時の担任教諭に近況を報告した。懇談では学生時代のエピソードとして「当初の進路相談では車両の整備関係を希望していたはずなのに、いつの間にか自衛隊に変わっていたね」と進路に悩んでいた時期の話が紹介され「その節は大変お世話になりました」と改めて感謝の気持ちを伝えた。「少し痩せたね」との恩師の言葉に「最初の2か月間は食事や入浴の時間もないほど忙しかった。今ではそんな生活にも慣れ同期と楽しく過ごしています。同期がいたから辛かった時期も乗り越えられた」「両親のありがたさをもっと感じた」と厳しい教育の現場や同期生の存在の大きさ、そして両親への感謝の気持ちなど入隊して感じた様々なことについて恩師に報告を行った。

自衛官候補生修了式に参加して（第1特科連隊教育隊（北富士駐屯地））



師団長褒賞を受賞した高見澤2士（左）

神奈川地方協力本部上大岡募集案内所（所長 荒木3陸佐）は、6月26日（金）第1特科連隊（北富士駐屯地）で実施された自衛官候補生課程の修了式に参加し、担当した8名の入隊者の課程教育修了を祝った。

3ヶ月前、季節外れの大雪の中、不安な表情で着隊した彼らであったが、修了式当日は皆、課程教育を完遂した達成感と充実感にあふれ、職種や配置先部隊も決まり、後期教育に向けて期待に胸をふくらませている様子であった。なかでも高校生の頃から国防に関心を持ち、着隊前から志を高く体力練成にも取り組んでいた高見澤2士が、第1師団長褒賞を授与され式典では同期生の最前列で指揮していた姿を目にした時、担当広報官としては感慨深いものがあった。今後は第1空挺団（習志野）で後期教育を受け、「次の一般曹候補生の受験にもチャレンジし早く陸曹になりたい」と話していた。

また、ほとんどの隊員が富士地区に配置される中、水陸機動団（相浦）に選抜された隊員もいて、皆自身の目標を定め自衛官として歩み始めた彼らに学生時代にはなかった逞しさを感じた。

最後に多くの入隊者を立派な自衛官として育ててくださった第1特科連隊教育隊の皆様には、広報官として感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。

上大岡募集案内所は「今後もこのような士気の高い学生を入隊に導くべく、学生との対話および入隊までのサポートを大切にしていきたい」としている。